

1. 南部地域の定住促進策は

平成 25 年に国立社会保障・人口問題研究所が発表した人口推計では、我が国的人口は 2015 年の 1 億 2,709 万人をピークに減少が進み、50 年後の 2065 年には 8,808 万人になると推計されている。

本町では、第五次総合計画で、2022 年度 19,300 人をピークとして、緩やかに人口が減少していくが、既存市街地などの都市機能を高めることにより、2024 年度の人口を 19,300 人としている。

本町は 6.55 km²の町域を、北部、中部、南部と 3 つの地域に大別し、まちづくりを進めてきた。特に南部地域は、南部土地区画整理事業として平成 19 年に組合を設立し、27ha の土地を約 73 億円かけて開発し、戸建て住宅 400 戸、計画人口 1,200 人を目標に事業を進め、平成 27 年には街開き式を開催し、その数年後には、みなみ自治会が新たに誕生した。

その中で、本年 10 月 1 日には 18,000 人を超え、人口増が続いているが、みなみ地区では、ここにきて住宅建設等の一般感がある。そこで当初の計画人口に対し、現在の状況をどのように評価しているのか、また、南部第 3 地区保留フレームの進捗状況を含め、今後どのような定住促進策を進めていくのか、町の考え方を問う。